日吉台新聞
HIYOSHIDAI
平成28年１１月1日

日吉台小、規模適正化の対象に

地域別ビジョンで明記

市教委

市内小中学校の規模について、望ましい姿を展望する大津市の市立小中学校規模等適正化の地域別ビジョンの素案が10月３日開いた市自治連役員会で公表された。この地域ビジョンで、市中北部地域では、日吉台小学校が、統合等を含めた規模等適正化検討対象校として名前が挙がっている。

市内では、児童、生徒が増加、学校施設が不足する地域がある一方で、全体として、少子化の影響で児童、生徒数の減少が予想される。児童、生徒数の変動は、子どもたちの学習生活や学校運営にも大きく影響、子どもたちにとってより良い環境を将来にわたって確保するため財政状況を含めた学校規模等適正化検討が課題となっていた。

市教委は、この課題解決のため26年度に保護者や教職員からヒアリングやアンケートなど実施、27年度では、30年先の望ましい教育環境の姿を見据え「教育的観点」「地域コミュニティにおける学校の役割の観点」「財政的観点」―の３点の考え方を基本に規模等適正化ビジョンの基本方針を公表している。

今回公表した地域別適正化ビジョンは、基本方針をもとに市内を７地域に分け、地域ごとに学校の現状と課題の整理、学校規模適正化の方向を呈示している。

雄琴、日吉台、坂本、下阪本、唐崎の５小、日吉、唐崎の２中がある中北部地域では、日吉台小が、この学校規模適正化の方向の項目で、教育的観点の視点で、検討が必要な小規模な学校として校名が提示された。

日吉台小は、今年度児童数は６学年合わせ１５７人。合計特殊出生率から求めた推計で平成42年度、児童数は１００人を切り95人、平成57年度には、69人にまで減少する。現在でもクラス替えができず将来推計では１学級あたりの児童数も減少する見込み。このままでは多様な対人関係による経験や学習機会の確保ができず現時点から規模適正化に向け検討する必要がある、と指摘している。

市教委では、12月ごろからこのビジョンで名前が挙がった小規模校や課題のある学校を対象に保護者や地域住民に対する地元説明会を開催。説明会後、保護者や学校による検討委員会や地域、保護者、学校による地域協議会などの設置を要請協議に入りたい意向をしめしている。地域協議会では、十分な議論を経たうえ取り組む方向性について地域の総意として意見集約、市教委としては、地域の合意が得られ次第、合意内容に基づき、規模等適正化に向け、学校での取り組みを推進することにしている。

発　行
日吉台学区自治連合会
日吉台学区まちづくり協議会
発行責任者
林　堅太郎
編集責任者
村澤　真保呂

題字は
４－11－２
梶谷清苑さん

一日体験入団開催

日吉台分団・団員募る

11月６日

大津市消防団日吉台分団（津田裕之分団長）は、消防団の活動を広く住民に知ってもらうため11月６日午後１時、日吉台１丁目の日吉台分団詰所で、一日体験入団を開催する。同分団では、この体験入団で、消防団活動に理解を求めるとともに意欲ある入団希望の団員を募っている。

体験入団は、大津市中消防署西分署の堀井分署長による大津市消防団の活動紹介や日吉台分団の活動紹介の報告のあと、詰所内のポンプ車や常備品などの見学をする。

このあと火点放水訓練の見学や実際に防火服を着用し放水体験なども行う。

同分団団員は定員28人に対し現在25人が在籍しており、３人欠員となっている。住民の高齢化で慢性的に欠員状態が続き、さらに分団員は職業を持っているため昼間不在のことが多い。団員集めは、現役団員が口コミや知り合いを頼りに入団してもらっているのが現状。声掛けでの団員募集にも限界があり、団員確保が悩みのタネ。このため日常活動や活動経験の継承にも問題が出ている。

そこで同分団では、今回初めて消防団の活動を知ってもらい幅広く住民から団員を募る一環として一日体験入団を企画した。体験希望者は、当日会場へ。問い合わせは同分団副団長の坂口さん（０７７－５７９－２８６０）まで。

同分団は、平成４年４月、有志20人が日吉台分団発足準備のため坂本消防分団に入団、その後平成７年４月、坂本分団から独立し日吉台分団が発足した。現在29歳から最高齢64歳の団員がおり、団員の平均年齢は40歳前後。さまざまな職業の団員が在籍、特別職の地方公務員として活動している。

消防団の活動としては、火災出動、風水害出動ほか１月の消防出初め式に始まり４月の山王祭消防警備、水防消防訓練、学区防災訓練などの出動、年末特別警戒などがある。

災害に備え学区防災訓練

11月6日、日吉台小を主会場に

日吉台学区自主防災会（高村克彦会長）は11月６日、学区防災訓練を行う。災害時における住民の安否確認と安全な場所への避難誘導を図るのが狙い。各丁ごとの地域自主防災訓練と学区民が一同に集まって行う学区自主防災訓練の２部構成で実施する。

地域自主防災訓練は、各丁自主防災会（８自治会）が各丁ごとに実施。自治会ごとに避難場所に集合、安否確認訓練を行い、避難者を学区自主防災訓練会場の日吉台小へ誘導する。そのさい、自主防災会長または、自治会長は防災トランシーバーで、本部に状況報告することになっている。

学区自主防災訓練では、同日午前８時、本部立ち上げ訓練を実施。本部が設置される日吉台市民センターには、学区自治連会長、学区自主防災会長、日吉台支所長、日吉台消防分団副分団長、自治連役員らが集合、防災トランシーバーで各丁との情報連絡、対応にあたる。そのさい、各丁では、自主防災会長と自治会長は行動をともにし、連絡、調整にあたることになっている。

各丁の避難者が日吉台小に到着する午前９時半、学区自主防災訓練が始まる。参加者らは、校舎横に設置した煙テントで、煙のなかの現実を体験したあと体育館に入り、災害記録映画を見て３班に分かれ消火器体験訓練、放水体験訓練、救命救急訓練などを行う。

江若バス最終便を減便

江若交通は、10月22日実施の新ダイヤで、日吉台を循環するバス最終便の減便を実施した。同社は、各バス停に減便通知を張り出し、利用者に理解を求めている。

同交通によると、平日の最終便、ＪＲ比叡山坂本駅23時13分発、23時22分、日吉台市民センター止め１便を廃止する。この廃止で平日の最終便は26分繰り上がり、比叡山坂本駅22時47分発、22時56分、日吉台市民センター止めとなる。

土曜、休日は比叡山坂本駅22時25分発と22時46分発の２本が廃止、比叡山坂本駅22時01分発、22時10分日吉台市民センター止めが最終便となる。

学区自治連は「了解とはいえない」と同社に対し遺憾の意を伝えた。

表彰

次のみなさん

▽１丁目南、村田俊武さんが、秋の危険従事者受勲で、瑞宝単光章を受章。

▽１丁目南、延與彰文さんが県警本部などの少年補導功労者表彰を受賞。

▽３丁目東、中野義勝さんが、市自治連合会の功労者表彰を受賞。

▽１丁目南、北岸弘子さんが大津市の社会福祉大会で、社会福祉功労者表彰を受賞。

お知らせ

▽紙面の都合で漫画「ひよちゃん」と「ひと・日吉台」は休載しました。
▽原稿依頼、ニュースの提供は、編集部までお知らせください。（連絡先は090・3035・7212）。

日吉台新聞編集部

秋満喫、深まる絆

学区運動会に歓声

幼稚園、小学校でも

学区運動会で、玉入れをする参加者

日吉台の学区民大運動会が10月９日、日吉台小学校グラウンドで開かれた。玉入れやジャンボボール送り、男女混合リレーなど６種目で行われた各丁対抗の得点種目で、４丁目東自治会が３年連続で総合優勝を飾った。

運動会当日は、未明からの雨でグラウンドは、あちらこちらで水たまり状態。役員総出で、スポンジなどを使って整備を行い開会にこぎつけた。競技最初の玉入れでは、頭上のかごに思うように玉が入らず四苦八苦する高齢者の姿も。朝からの雨も昼過ぎには、時おり陽も差し始め、競技も順調に進行、グラウンドを思い切り駆け回り、心地よい汗を流していた。運動会の最後を締めくくる男女混合対抗リレーでは、この競技次第で、総合順位が決まるとあって各丁の応援合戦は最高潮。声を振り絞って声援を送り、目まぐるしく変わる順位に一喜一憂していた。

日吉台小学校（田中誠校長）の運動会も９月24日開催。９月に入り天候不順で、練習不足が心配されたが、子どもたちは元気いっぱい。来場の父母や家族らを安心させた。

日吉台幼稚園

ママさんの手で延長保育

さらなる充実策、検討へ

ママ預かりが実現した。

現在同幼稚園には、年長児４人、年少児４人の計８人が在園している。ママ預かりは、毎週月曜日の幼稚園の保育時間が終わる午後２時から始まり午後４時まで。同幼稚園の預かり部屋を利用して実施されている。降園後の午後３時までは、サッカーコーチに来てもらいボール遊び、３時から４時までは、８人の保護者が交代で子どもたちの面倒をみており、子どもたちは、おやつを食べたり、自由に遊んだりしている。

ママ預かりとは別に市は火曜日と木曜日の午後２時から同４時まで、子育てコーディネーターを派遣、延長保育を実施している。

市は、来年度から延長保育をさらに１時間繰り下げ同５時まで制度を拡充させる予定。ママさんたちはこの市の制度拡充策に合わせ、延長保育がない水曜日と金曜日にもなんらかの形で延長保育ができないか検討を始めた。

周辺地域の市立幼稚園との統合が取りざたされている市立日吉台幼稚園で、お母さんたちの就労支援に少しでも役立てようと毎週月曜日の降園後の午後２時からママさんの手による延長保育が行われている。

このママ預かりの実施は、平成25年暮れ、市が日吉台幼稚園の統合問題を含めた幼稚園規模適正化の方針説明が行われたのがきっかけ。同幼稚園の保護者らは、自ら園児確保に立ち上がり、魅力ある幼稚園づくりのために市に延長保育を要望したが、市は、難しいという回答だったので、父母や地域でこの延長保育システムを構築、学区まちづくり協議会の子育て応援隊がバックアップすることになり、平成26年秋

日吉中野球部愛のグラウンド整備

日吉台幼稚園運動会に備え

日吉台幼稚園でスポンジで水を吸い取る日吉中野球部員

日吉台幼稚園の運動会は10月１日開催。連日の雨で運動場がぬかるみ延期も検討されたが、市立日吉中野球部員の手助けでグラウンド整備が行われ開催にこぎつけることができた。

開催当日朝、幼稚園のグラウンドは、あちこちに水だまりができ、運動会は開催不可能状態。同幼稚園の寺田賀寿代園長が、市立日吉中学校（山本進校長）にグラウンド水除去用のスポンジの借用を依頼したところ、同中から同中野球部員が練習を兼ねグラウンド整備に協力するという申し出があったという。

部員22人は午前７時半、中学校に集合。幼稚園まで約３キロをランニング。全員がスポンジでグラウンドの水を吸い取り、開始前にグラウンドが乾いて開催にまにあった。

園児は８人。運動会では、人数は少ないものの元気に駆け回る姿に保護者や来賓らも力いっぱい声援、たのしいひとときをすごしていた。

学区文化祭を開催

にぎわうセンター会場

日吉台住民の文化、芸術活動を一堂に紹介する第32回日吉台学区文化祭（学区文化祭実行委、日吉台公民館主催）が10月21日から23日までの３日間、日吉台市民センターで開かれた。

同センター会議室に設けられた展示会場には、生け花、絵画、写真、陶芸、俳画などのコーナーが設けられ、住民らが丹精込めた作品がずらり。最終日の23日は、大会議室で発表会があり、民謡、尺八、器楽演奏、日本舞踊など日ごろの練習の成果を披露、訪れた人らは、芸術の秋を満喫した。

バザー売上金を寄付

学区社会福祉協

日吉台市民センターで開かれた第12回「福祉まつり～敬老のつどい～」（日吉台学区社会福祉協議会、日吉台学区自治連合会主催）で実施した「福祉バザー」＝写真＝で、来場者に購入してもらったバザー用品売り上げ金４万９２２９円について、学区社会福祉協議会は10月７日、大津市社会福祉協議会に寄付した。市社会福祉協議会は、生活困窮者支援事業に役立てることにしている。

人権を考える集い

11月19日、下阪本公民館で

「～第48回人権を考える大津市民のつどい～日吉ブロック秋の集会」（大津市人権・生涯学習推進協議会連合会、人権を守る大津市民の会など主催）が11月19日午前９時、下阪本小学校で開催される。

人権尊重を基盤とした個性と魅力あふれるまちづくりをめざしてーがテーマ。「共生するまちづくり」▽「心豊かに生活できるまちづくり」▽「安心・安全なまちづくり」▽「生きる力を育てるまちづくり」の４分科会に分かれパネルディスカッションや講演、意見交流を行う。

集会開催中、同館２階図書室で託児コーナーが開設。対象は３歳以上から小学２年生まで。希望者は集会前日までに下阪本公民館（０７７－５７８－００１７）へ申し込みが必要。

集会への問いあわせは下阪本公民館内の人権を考える大津市民のつどい日吉ブロック運営委事務局まで。